

## 第12回 番組審議会議事録概要

---

### 1. 開催日時

令和元年6月10日(月) 午前12時より

### 2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

### 3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶、宮崎美紀子

(欠席 : 藤原庸介、竹中尚人)

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、岡崎洋三、峰岸淳、窪田正利、五百城重典、松永正隆

株式会社フジテレビジョン

福本洋、鹿内植

株式会社ジュピターテレコム

森井健策

株式会社スペースシャワーネットワーク

藤島克之

株式会社CJ E&M JAPAN

張 赫珍、三澤 法夫、渡邊玲未

### 4. 議題

1) 「ボーイフレンド(原題)」#1

Mnetで放送

2) 「超特急の撮れ高足りてますか？」

フジテレビTWOドラマ・アニメで放送

3) 報告事項 「株式会社サテライト・サービスの資本構成の変更について」

代表取締役社長 加藤浩輔 から

- ・3月に総務省から「BS放送等に係る衛星基幹放送の業務の認定申請」の募集があった。様々な会社から応募があった。9月には4事業者が認定される予定。
- ・株式会社サテライト・サービスの株主はこれまで10法人だったが、株式会社フジ・メディア・ホールディングス以外の9社から自社株買いを行い、2月に株式会社フジ・メディア

ア・ホールディングス 100%の子会社となりました。事業内容は変わらないので、委員の皆様にはこれまで同様よろしくお願いいたします。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■「ボーイフレンド（原題）」#1 Mnet

- ・冒頭の影絵風のアバンタイトルがストーリーを想像させる演出効果があり完成度が高い。
- ・有名な作品のオマージュが効果的で、ニヤッとさせるところが随所にある。
- ・11歳差という設定が観ていて分からなかった。設定を知って観る人が多いのかもしれないが、番組中に分かるような工夫があっただけよかった。
- ・非日常性と奇想天外性、この2つが二転三転して絡み合っていて面白かった。
- ・ストーリーが無駄なく頭に入り想像力を掻き立てる。老若男女、安心して見ていられる。
- ・一番の印象はキューバのハバナの街並み、景色が美しかった。
- ・キューバはラテンアメリカの社会主義国家で、ある種閉鎖的なイメージがあるが、この作品では重要なテーマの一つ「自由」がきちん描かれていた。
- ・韓国は財閥が社会に強く影響力を持っており、家族・家を大事にする反面、個人の自由は制限されているが、そういう韓国社会を前提にして成り立っているドラマだと感じた。
- ・韓流ドラマにイメージしていたドロドロ感がなかった。
- ・映像が非常に綺麗。色のコントラストが良かった。古い感じもよく出ていた。
- ・韓流ドラマ全体に関して、ヒットするかどうかわからない作品に対し放送を希望する局が多い中、この作品を放送するに至った経緯を教えてください。
- ・日本のドラマと韓国ドラマは別物であるという認識を改めて持った。例えば若い娘が大企業のトップになる。日本ではリアリティがなく入り込めない。別のカルチャーで生まれたものだと念頭においてこそ物語に入り込める。だから、日本で韓国ドラマが流行っているから作風を近づけるなど中途半端に真似したら失敗するだろうな、と思った。
- ・日本のドラマの作り方とはだいぶ違う。
- ・第一話を見る限りでは、導入部が上手だった。街を紹介するときのスチール写真の使い方、映像での見せ方、ドローンのさりげない使い方などが良かった。
- ・作品の舞台にキューバを選ぶのも日本とは違う。外国に対する考え方が違っていると感じた。日本は社会システムや制度を背景に描いているケースが多いように思うが、韓国は人に拠っているイメージがある。これはドラマの本質ではないだろうか。世の中での価値観も変わっていくと思うが制作者が意識的に作っているのが韓国のドラマ。それが韓国のドラマが話題になっている理由ではないだろうか、

藤原委員からメールでのご意見

- ・制作費が相当かかっているようであり、日本での放送権料もそれなりにすると思う。
- ・内容から見て地上波やBSで放送して広告収入を稼げるようなドラマだと思う。ただ、韓国ドラマの場合、60分枠に収まらないものが多いのでCSのように編成の自由がきく

チャンネルでないと放送しにくいと思う。

- ・大韓航空の「ナッツ姫」の例のように、財閥の家系であれば能力にかかわらず若いうちに系列会社の社長になれるという韓国の社会や、対外的に「わが社の社長様」という言い方をする企業風土の日本との違いなどの情報を毎回短く補足すれば、視聴者の番組理解を促進できるかも知れない。
- ・予告や再放送など、放送計画もよく考えられていると思う。

委員からの意見に対し制作サイドから (Mnet 渡邊)

- ・原作は漫画とかではなくオリジナル作品。タイトルは韓国語を日本語にそのまま訳した。韓国の会社から日本人に分かりやすいように、と言う意見があり、こうなった。
- ・韓国は地上波・衛星などチャンネルが多いので韓国の視聴率 10%は日本の地上波 20%に相当するといわれている。
- ・韓国での放送は失敗ではないが、素晴らしい成果でもなかった。その理由は様々あるが、最近の韓国ドラマはストーリーの展開が早くて刺激的。この作品は昔の韓国ドラマファンが落ち着いて観られる。それが日本の韓国ドラマファンに評価されてるのではないだろうか。

■「超特急の撮れ高足りてますか？」 フジテレビ TWO ドラマ・アニメ

- ・超特急が出演している他の局のバラエティ番組も見ている。アイドルとしてはまだまだ未完成で、グダグダ感も魅力的なグループ。超特急を知らない一般の人から見ると不完全さが目につく番組だと思うが、不完全さも超特急の魅力なのでファンには良いのでは。
- ・ツボを得ていると思ったのはボーイズラブ要素。今、アイドルファンはカップリングとしてみるのが一般的になっているので、そこを理解して作っているなと感じた。
- ・催眠術の先生の方が超特急よりキャラが立っていた。
- ・超特急のファンが見るための番組でいいのか、彼らがアイドルとしてステップアップしていく成長物語なのか、で作りが違ふのだろうなと感じた。制作意図をどこに置くのか、視聴者層をどこに置くのかが重要だと思った。
- ・催眠術はCS ならでは。科学的に医学的にどうなのか心配してしまった。
- ・CS なので視聴の対象はグループのコアなファンだと思う。メンバーの個性、性格が表れている内容だった。催眠術に関しては、誰もかからなかったらどうしたのか、企画段階で議論がなされていたのかどうか。グループが忙しくて 2 時間しか収録ができないという設定だったが、この番組はドキュメントバラエティともうたっているので、番組で“2 時間しかない”という告知は演出手法として疑問に思った。
- ・弁護士視点で言えば催眠術にかかったらどうなるのかをあらかじめメンバーに説明しているのか気になった。催眠術にかかるとコントロールできなくなる。マネジメントサイドとしてはタレントのイメージが損なわれることを懸念すると思う。

- ・超特急のファンしか観ない番組かもしれないが随所に引きがある。もうちょっと作りこんでもいいのでは。例えばスパイダーマンになったら英語でしゃべってほしかった。
- ・番組の一番の目的はメンバーの普段見られない顔が見られることだが、その目的を果たしていると思った。ダメさも癒しとして可愛いと思える演出になっている。
- ・“撮れ高“というお題を出しているのでも、点数をつけるとか、罰ゲームとか、目標があって結果がある次の目標につながるような作り方をした方が頑張ってる感が出る。

藤原委員からメールでのご意見

- ・この番組はディープなファン層をターゲットにしているように思える。つまり、ファン層を拡大するための番組ではなく、現有のファン層を楽しませることが目的だと思える。そういう目的であれば、スケジュールの隙間を有効に使って制作するこのような番組はファンサービス番組として十分成り立つと思う。その意味で30分という枠も適当な尺だろうと思う。

委員からの意見に対し制作サイドから（フジテレビ TWO 福本）

- ・きっちりした番組でなく緩い内容と言う感想が出るのは当然。CSでバラエティをやる場合、特にタレントの冠番組を作ると言う事はすべての層が見る無料放送の地上波より突っ込んだ、ある意味コアファン以外は面白いと思わなくてもいいという考え方ができるのが強み。分かる人だけ分かるという部分では匙加減が出来ていると思う。
- ・番組が始まって4年目になるが、ちょうどインターネットで同時再送信を始めた時代。有料コンテンツなの簡単に加入や退会できるようになっている。
- ・今までCSの放送から遠ざかっていた若い層をどうやって取り込めるか、放送と配信の分析をしている。この番組に関してはスマホで見る層が多い。
- ・メンバーも駆け出しではないのでハードルを課すために、この4月から制限時間を加えたが、ご指摘の通りテンポアップはしていない。今の緩さを残しつつも意見を参考にしたい。
- ・催眠術に関して、収録前に予備催眠をかけて通常よりかかりやすい状態になってる。やらせは全くない。メンバーの中でも二分したが肯定的な人はかかりやすい、疑心暗鬼な人はかかりにくい傾向があるらしい。
- ・催眠術の先生は地上波の番組にも出演しているので依頼した。

委員から もし催眠術に誰もかからなかったとしても番組として成立したと思う。

## ■報告事項 「株式会社サテライト・サービスの資本構成の変更について」

- ・冒頭に加藤社長の挨拶の中で説明

5, 次回予定

次回は令和元年 10 月 28 日を予定していたが、委員の都合により、別日で調整する。  
議題はスペースシャワーTV とアニマルプラネットの番組の予定。